

大学生 高校で進路指導

東北大などの学生が数十人規模で大挙して高校を訪れ、高校生に大学生活の実情を語り聞かせて進路指導する新しいキャリアセミナーが県内で動き出した。自分の数年先を歩む同世代の体験談を進路選択の参考にしてもらうのが狙い。生徒は進学や就職の意味を再認識し、受験や就職に向かう意欲を高めている。

仙台の市民団体企画

「自分のやりたいこと 目標にしている」
を見つめるのは難しい 大学生の言葉に、高校
が、いろいろ挑戦しない 生は身を乗り出して聞き
とそれも見つからない」 入った。
「人との出会いが自分の 十三日、名取市の名取
枠を広げてくれる。大学 北高であったセミナー。
時代に千人と会うことを 八大学の三十二人の学生

体験談を「講義」



大学生生活の魅力を高校生に語る学生=13日、
名取北高

が教室に散り、二年生二
百八十人に語り掛けた。
講義は五十分二コマ。
高校生は興味がある講

年齢近く 親近感

義を二つ選んで受講す
る。学生は大学の講義
内容やサークル活動、ア
ルバイト、恋愛などの体
験談を披露。受験勉強の
コツを伝える学生もい
だ。高校生の反応は上々
だった。
生徒の橋浦麻由さん
（二）は「年齢が近くて親
近感がわいた」と話す。
須藤渉さん（三）は「大学
が身近になった。入学し
ていろんなことに挑戦し
たい」と夢を膨らませた。
名取北高進路指導部
長の丹野俊行教諭は「進
路選択が本格化する時期
に同世代の先輩の話を
聞いて、生徒は刺激を得
たと思う」と手応えを語
る。

セミナーは仙台市の市
民団体「ハーベスト」が
主催した。二〇〇七年か
（721）6180。
から県内の中学、高校の計
八校で開いている。今回
は高校生に進学動機を明
確にしておらうと、初
めて大学生のみの講師陣
で臨んだ。学生の人脈を
通じて協力を呼び掛け、
無償で引き受けてもらっ
た。
中山聖子代表（三）は
「講義を通じ、生徒は目
標を持つ大切さや興味を
持ったら実行する重要性
に気付く。講師側も自分
を語ることで、生きる意
味や働く意味を再確認す
る」と双方の利点を強調
する。
セミナーは学校から講
師の派遣要請を受けて開
く。今後の課題は運営費
の工面で、企業や行政に
財政支援を求める。連絡